

科目名	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)			ナンバリング	858192	授業形態	0
対象学年	1・2	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	大島典子〇	担当教員					

授業の概要	スクールカウンセラーとして学校現場で活動する心理士として求められる役割を理解する。 具体的にはスクールカウンセリング事業の歴史を学び、その上で身に付けておかねばならない「学校という場」に対する知識、学校における臨床心理学の専門家としての役割、学校臨床で子どもに関わる際に必要な技法や心構え、親や教師に対応する場面での役割、連携と倫理について理解する。						
到達目標	1)学校現場で心理士の専門性を活かすために必要な姿勢を説明することができる 2)学校現場で心理士の専門性を活かすために必要な知識を説明することができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	ニュースなどからも学校現場で生じる出来事について理解を深めておく						
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
	○	1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
	○	3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1)学校現場で心理士の専門性を活かすために必要な姿勢を理解できる 2)学校現場で心理士の専門性を活かすために必要な知識を理解できる	1)学校現場で心理士の専門性を活かすために必要な姿勢を説明することができる 2)学校現場で心理士の専門性を活かすために必要な知識を説明することができる

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○			20%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○			40%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		40%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	スクールカウンセラーの仕事について、現時点で知っていること、疑問点をまとめ、今後の学修のテーマを明確にする。	
	第2回	スクールカウンセラーの役割と学校支援の実際(1)	スクールカウンセラーとしての臨床心理士の職務・意義について学ぶ。	
	第3回	スクールカウンセラーの役割と学校支援の実際(2)	スクールカウンセラーとしての臨床心理士の職務・意義について学ぶ。	
	第4回	スクールカウンセラー活用事業の経過	スクールカウンセラーがなぜ求められているのか、スクールカウンセラーの学校現場への関り方について学ぶ。	
	第5回	スクールカウンセラーの外部性と専門性(1)	スクールカウンセラーの外部性のメリットとデメリット、さらになぜ外部性が重要とされるのかについて学ぶ。	
	第6回	スクールカウンセラーの外部性と専門性(2)	スクールカウンセラーの専門性について、他の臨床との相違について学ぶ。	
	第7回	スクールカウンセラーの仕事	スクールカウンセラーの業務について、総合的に学ぶ。	
	第8回	スクールカウンセラーの校内の組織作りと効果的な運用	学校現場の組織体制について理解し、その上でスクールカウンセラーがどう活動することが効果的なのかについて学ぶ。	
	第9回	いじめ問題への関わり	スクールカウンセラーとして学校でのいじめ問題にどう関われるか、関わるべきかを学ぶ。	
	第10回	不登校への支援(1)	スクールカウンセラーとして不登校児にどう関われるか、関わるべきかを学ぶ。	
	第11回	不登校への支援(2)	スクールカウンセラーとして不登校児にどう関われるか、関わるべきかを学ぶ。	
	第12回	発達障がいへの支援	スクールカウンセラーとして発達障がい児にどう関われるか、関わるべきかを学ぶ。	
	第13回	保護者面接	保護者面接の方法、注意点について学ぶ。	
	第14回	緊急支援	緊急支援について理解し、その活動の実際について学ぶ。	
	第15回	まとめ	スクールカウンセラーになった際にどう活動したいか、するべきかなどビジョンをまとめる。	
	試験	実施しない		
授業の進め方		毎回の内容に先立って課題を提示する。講義は各自が作成してきたレポートをもとにしたディスカッションが中心となる。		
授業外学習の指示		毎回、内容を復習するとともに学んだことの整理をする(90分)。さらに、次回の実習課題について、疑問点を調べておくこと(90分) (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	適宜、講義内で紹介する。
参考書	適宜、講義内で紹介する。
参考URLなど	適宜、講義内で紹介する。
その他	